

卒業論文の手引き

令和 6 年度(2024 年度)入学者用

福 島 大 学 人 間 発 達 文 化 学 類

～～～～～～～～～～～～～～～～

卒業論文について

～～～～～～～～～～～～～～～～

I. まえがき

皆さんは、いま大学生活をちょうど半分終えて、後半期のスタート地点に立っていますが、勉学上のしっかりした目標を立てていますか？後半期のカリキュラムでは、より専門的で、かつ学生自身が主体的に関わるような教育形態が重視されています。なかでも卒業論文に取り組むことは、自らの学習課題を設定し、それぞれの学問のより専門的な領域の学習を行う最大の機会です。

主体的な学習課題の設定は、一朝一夕にできるものではありません。この「手引き」は、皆さんが、個々の教員の研究室の扉をノックする時点までに考えておかなければならないいくつかの留意点を示したものです。また、この「手引き」に盛り込まれている各教員の指導領域の説明は、必要最小限のものです。ひとつの手がかりにすぎませんが、よく読んで活用してください。

II. 卒業論文制度の趣旨と具体的な留意点

(イ) 卒業論文への取り組みは、皆さんの大学生活の総決算ともいえる重要な学習の機会です。本学類では、その成果に対して 4 単位を与え、卒業の必要条件としています。

先輩たちは、卒業論文を大学における学びのもっとも充実した機会として受けとめてきました。皆さんも是非、卒業論文は 4 単位という数字以上の重みをもつものとして受けとめてください。

(ロ) 人間発達文化学類の場合、学問分野が多様です。その上いくつかの分野にまたがることもあります。そのため、卒業論文はこういうものだと、一律に述べることはできません。ごく一般的な形でしか言えませんが、取り組むに当たっては、次のような点に留意しておく必要があります。

第一に、卒業論文は、指導教員の指導を受けることを前提としています。ですから、どの教員の指導を受けるかを決めることが重要になってきます。そのためには、教員がどういう専門分野の研究者なのか、どういう講義を行っていて、その教員のもとで、先輩がどんな論文を書いてきたかを知っておくことが必要です。また、自分が興味をもつテーマに近い分野の教員の授業をあらかじめ受けておくとか、インターネットで福島大学のウェブサイトから各教員の業績を見ておくとか

いったことも大いに役立つでしょう。

福島大学ウェブサイト <http://www.fukushima-u.ac.jp/>

第二に、論文の題目を決定することは、指導教員を決めるだけではなく、論文作成の土俵をすえるという、たいへん重要な意味をもっています。論文題目の提出締切は9月30日となつてはいますが、それ以前の早い時期から研究室を訪ねて相談をしてほしいのです。その際、事前に一定の学習をしておけば、それだけ取り組みが具体的に進みます。

(ハ) 皆さんは、自分自身の問題意識（興味・関心）に基づいて論文題目を決めることになりますが、決定に至る過程でいろいろと迷うこともあるでしょう。一人で悩まずに、授業で接している教員、コース・アドバイザーの先生方に相談にのってもらいましょう。また、先輩や学友に相談にのってもらうこともよいでしょう。自ら積極的に行動することが何より大切です。締切日が迫ってからは、教員によっては応ずる人数が多すぎて、十分に対応できない事態も生じます。遅くとも、5セメスターの7月頃までには、希望する指導教員の研究室を訪ねてください。

コースによっては、ガイダンスを開催するところもありますので掲示等に留意してください。

(ニ) 指導教員が決まったら、皆さんは指導教員が開講する「卒業研究基礎演習」を3年の後期（6セメスター）に、さらに「卒業研究演習Ⅰ」「卒業研究演習Ⅱ」並びに「プレゼンテーション演習」を4年で受講しなければなりません。くれぐれも受講手続きを忘れないように注意してください（3～4頁参照）。卒業研究は、各コースが開催する卒論発表会で審査をうけることとなります。所属するコース以外の教員の指導のもとで卒業研究をする場合は、指導教員とコース・アドバイザーと相談のうえ、学生所属コースと指導教員所属コースのいずれかの卒論発表会に参加してください。

(ホ) 論文というものがどのようなものなのか、まったくイメージが湧かない、というような状態ではテーマの設定どころではありません。そうならないように、日ごろから教員と話し合ったり、典型的な論文に読みなれたりする必要があります。附属図書館には多数の論文や書籍が収蔵されています。ぜひ、活用してください。

(ヘ) 皆さんの取り組む卒業研究は、自らが選択したコース専門プログラム学習を深化・発展させる内容となるはずですが、したがって、卒業研究の指導教員は次の2つの条件をいずれも満たしていなければなりません。

①所属コースの教員であること

②選択するコース専門プログラムに掲載されている科目の担当教員であること

ただし、教職登録をしている学生については、以下の科目の他コース担当教員を卒業研究の指導教員とすることができます。

a 小学校を主免許として登録する学生については、副免許で登録する教科の教科教育法科目の担当教員*

b 中学校または高等学校を主免許として登録する学生については、主免許で登録する教科の教科教育法科目の担当教員*

c 上記に加え、特別支援学校免許を登録する学生については、特別支援学校免許関連科目の担当教員

*高校のみの教科教育法科目（公民科教育法・地理歴史科教育法）の担当者を除く

卒業論文の提出までの諸手続きについて

「卒業論文（演奏や作品提出を含む）」を完成させ、卒業するためには、卒業研究科目を修得する必要があります。当該科目には、独立した五つの授業科目があり計 8 単位を修得することになります。これらの単位修得にあたっては、次の手続きが必要なので、手続きを怠ったために卒業延期となることのないように留意してください。

1. 卒業研究基礎演習（6 セメスター）

3 年次前期の定められた期日までに卒業論文指導教員を決定し、卒業論文指導教員届を提出したうえで、この科目の履修登録を行うこと。両方の手続きを経ないと単位修得ができず、4 年次の論文提出も認められない。

2. 卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ（7・8 セメスター）

演習Ⅰは 4 年次前期に、演習Ⅱは後期に履修登録をすること。

3. プレゼンテーション演習（8 セメスター）

4 年次後期に履修登録を行うこと。

4. 卒業論文（8 セメスター）

4 年次後期に履修登録をしなければならない。さらに、翌年 1 月の定められた期日までに「卒業論文提出届」を添えて、論文を事務担当窓口に出ししなければならない。

なお、美術の作品制作については「卒業論文提出届」を事務担当窓口に出した上で、作品を指導教員に提出することで卒業論文提出に替えることができる。また、音楽の演奏についても「卒業論文提出届」を事務担当窓口に出す上、指導教員の指示に基づき、演奏をもって卒業論文提出に替えることができる。

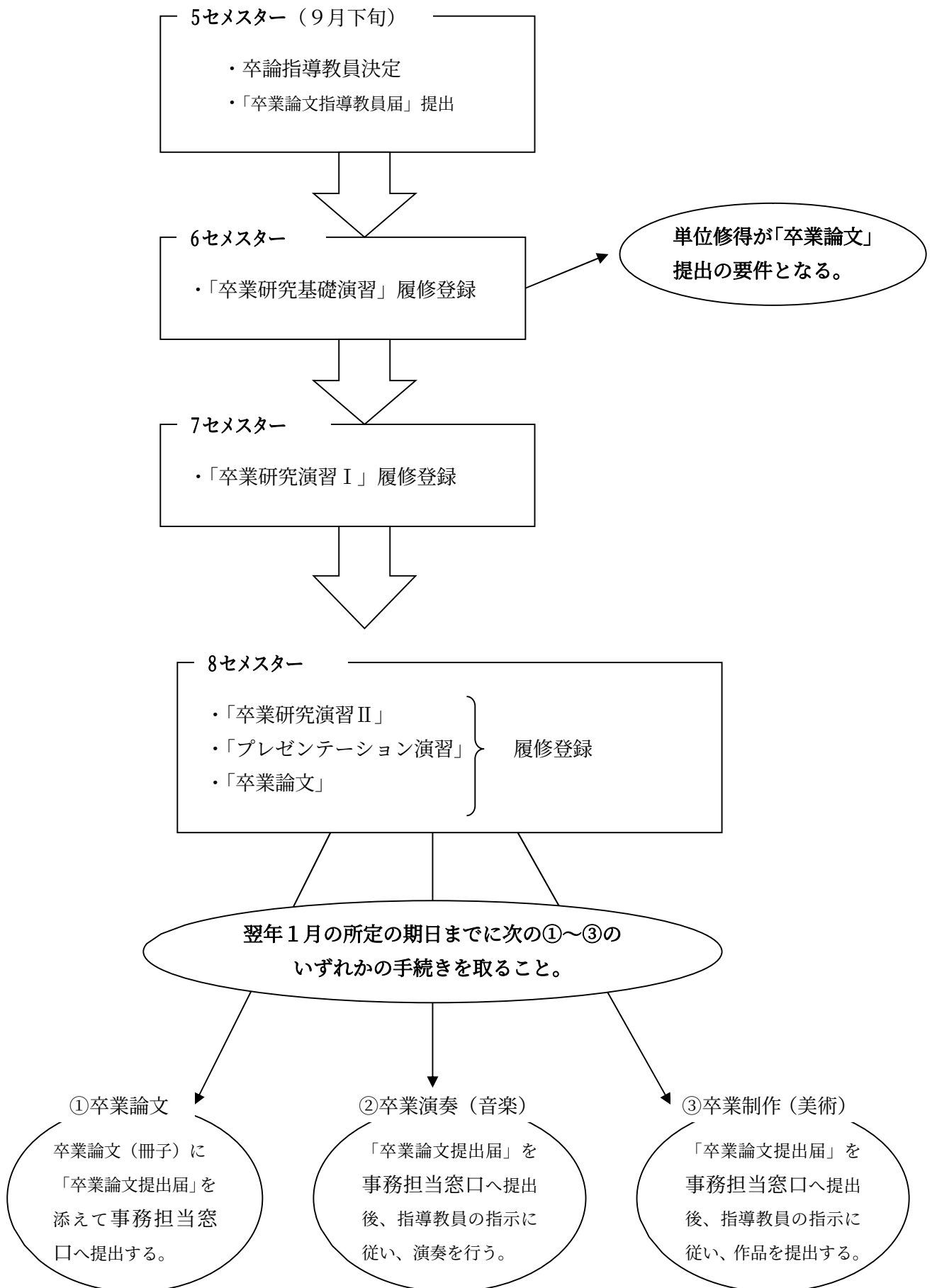
いずれの場合も、所定の手続きを怠った場合には、卒業論文を提出したとは認められないので留意すること。

5. 3 年次に提出の卒業論文指導教員に変更が生じた場合は、速やかに変更届を提出しなければならない。

6. 卒業論文作成要領

- ① 卒業論文は、ペン、ボールペン又はパソコン等の印字を用い、指導教員の指示により作成すること。鉛筆書きは認めない。
- ② 論文は、綴じたものとし、表紙には卒業論文題目、学籍番号、氏名、指導教員名を明記すること。
- ③ 共同研究については、分担部分を目次等に明示すること。
- ④ その他、卒業論文に関する日程、手続き等については掲示により周知するので、見落としのないように留意すること。

卒業論文作成の手順



教育実践コース

指導教員名	指 導 領 域
植 田 啓 嗣	教育学、比較教育学。教育理念・思想・歴史あるいは外国の教育に関わるテーマを対象としています。また、教育思想や比較教育の視点から、現代の教育課題を研究することもできます。研究分野の特性上、外国語の文献も読んでもらいます。
小 川 尚 子	社会の要請や教育現場の変化を的確に捉えながら、体育科教育の本質である「身体活動を通した学び」を基盤とした授業づくりを探究しています。文献調査、授業・実践の観察、データ分析を組み合わせることで、学生が独自の視点から教育課題を捉え、解決に向けて論理的に思考できる力の育成を目指します。
神 山 真 由	教育行政学、教育経営論。教育をめぐる様々な問題について、教育制度やしぐみ、教育政策の視点から考えます。教員の労働問題、ジェンダーと教育、フリースクールなど、学校内外を問わず様々なトピックを、学生の興味関心に合わせて扱います。
工 藤 日 南 子	教育工学、学習や認知に関する教育心理学。情報の受信や発信、ICT活用に関わる非認知能力、情報リテラシー、情報モラル、SNSコミュニケーション、生成AIの活用など。主に量的データを用いた研究手法とし、テーマは学生の興味関心に応じて扱います。
坂 本 篤 史	授業論・教師論・カリキュラム論。授業やカリキュラムレベルでの子どもの学びのあり方やこれからの学力のあり方、それらを支える教師の実践知が主たる研究対象となります。先行研究レビューに基づく理論的探究と、具体的事実の分析に基づく実践的探究を統合する研究により、授業実践について自らの軸を創ることを目指します。
佐 藤 栄 治	社会科における教材開発の進め方とカリキュラムの在り方について考えます。そして、現代社会の課題と向き合い、自ら考え判断し行動する自立した社会の一員としての資質を育成する授業づくりについて研究します。
谷 雅 泰	教育学、とりわけ日本教育史。地域の人々が何を思いどのように小学校を立ち上げてきたのか、に興味を持っている。卒論テーマとしては、およそ教育学に関わる問題であれば、歴史と関わりのないテーマはないので、学生の興味・関心の所在により何でもかまわない。
中 野 真 悟	道徳科や道徳教育、生徒指導について研究します。これらは特別活動、総合的な学習の時間などの各教科等とも関連付けることで、より効果を高めることができます。そのため、授業法や指導法だけでなく、各教科等と関連づけた単元の作り方や支援体制のあり方についても研究できます。
橋 本 忠 広	国語科教育に関わる事柄について幅広く研究対象とします。言語教育・文学教育に関わる理論や実践、実際の授業づくりの方法や内容など、各自の研究テーマを決めて、まず先行研究をしっかりと読み込みます。それを踏まえたうえで自らの問題意識を明確にして深く掘り下げ、論文の柱を立ち上げていきます。
森 本 明	算数・数学における授業デザインとカリキュラム構成の研究。数学教育研究の基礎理論との出会い、実践研究を推進している小中高等学校の先生方との出会い、そして子どもたちとの出会いを大切にして、実践をふまえた算数・数学の教材研究や授業過程の研究の基礎を学ぶ。
高 橋 英 子 *	社会教育学、生涯学習、教育社会学。地域づくりや課題解決に取り組む人々の実践と学びについて考えます。また子どもの体験的学びを支える取組もそこに関わる大人にとっては生涯学習です。社会教育・生涯学習の射程距離は広く、学生の興味関心により様々なことが研究対象になります。

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

心理学・幼児教育コース

指導教員名	指 導 領 域
住 吉 チ カ	認知心理学、臨床心理学。成人及び幼児のカテゴリー化機能や推論機能、及び統合失調症を主とする精神疾患患者の認知機能障害について研究を行っている。
高 谷 理 恵 子	専門は発達心理学。ヒトの初期発達に関係する諸問題について研究している。家族関係や成育環境など発達に影響を与える可能性のある要因について検討し、その支援の在り方についても考えていきたい。
伊 藤 雅 隆	研究領域として、行動分析学、臨床心理学を専門としている。成人や大学生を対象とした認知行動療法の効果の検討や、心理療法のより効果的な提供方法についての検討を行っている。
木 暮 照 正	研究領域は、主に成人を対象とした教育心理学で、成人発達・成人学習・成人教育を中心に研究。これらに関連した実験心理学、認知心理学、社会心理学、サイバー心理学（インターネット・ユーザの心理）、応用心理学的研究も範囲とする。
原 野 明 子	幼稚園や保育所において幼児は何を経験しているか。またその背景にある保育者の価値観やそれにもとづく環境構成の考え方などについて。主として、幼稚園や保育所でのフィールドワークをしながら研究をすすめる予定。
村 木 洋 子	乳幼児を取り巻く環境にあふれている自然発生的な音、あるいは保育者が意図をもって表現する音、それらは発達にどのように役立つかなどについて探求する。学生自らが音を表現することによる保育も試行し、乳幼児との関わりのあり方について探る。
天 野 諭	子どもたちの仲間関係はいかにして立ち上がるのかを、ジェンダーの視点から研究している。自由遊び場面を対象にフィールドワークを行い、子ども同士の相互行為の初動に着目する。とりわけ「戦いごっこ」などの遊びを通して、子どもたちがどのように「友だち」になっていくのかを探求している。

特別支援・生活科学コース

指導教員名	指 導 領 域
角 間 陽 子	家庭科教育学または生活経営学の分野でよりよい生活とその実現をめざす学びについて研究する。家庭科教育学では主に消費生活、家族、高齢者福祉、生活設計などの学習指導や教材、評価を、生活経営学では生活資源とその活用による生活の質への影響を検討する。
* 佐 藤 玲 子	住居学分野は、包括する空間・住生活のありようが人に、子どもにもたらす影響とその関係性・課題について研究する。空間の豊かさと物理的快適さ・心理的心地良さ、住空間におけるインクルーシブデザイン、住まい方について考察する。
* 千 葉 桂 子	衣生活に関わる諸問題について研究する。特に、生活文化としての布・衣服・染織や衣生活教育・ものづくりの意義について検討する。また、衣服の着心地や適合性について検討する。
中 村 恵 子	調理・加工過程における食品の変化に関する調理科学的研究や、食教育に関する研究を行う。具体的には、オープン加熱調理、大学生を対象とした食育、小中学校家庭科における調理実習指導などである。
* 小 檜 山 宗 浩	特別支援学校を中心とした特別支援教育に関する実践的研究を進める。特に、知的障害、肢体不自由等の教育課程の編成と実践、自立活動の指導、特別支援学校における学校経営や学級経営、地域支援に関する実践など。
高 橋 純 一	障害を通して「人の多様性」に関する研究を行う。具体的には、障害観、能力観、偏見・差別、障害理解教育、インクルーシブ教育など。
和 田 恵	障害のある児童の社会的認知と、その支援の在り方についての研究を行う。教育の場における円滑なコミュニケーションを促すための支援・調査を、児童ないしは教職員・保護者を対象に行い、実験、行動観察、質問紙法、面接法などの手法を用いて検討する。
* 柳 沼 哲	特別支援教育に関する実践的な研究を行う。教育的ニーズ、特別支援教育コーディネーターの役割、関係機関との連携、重複障害児や医療的ケア児と教師との相互関係の変容などの授業づくりなど。

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

芸術・表現コース

指導教員名	指導領域
今 尾 滋	声楽分野における研究、即ち作品研究、作曲家研究、演奏法研究、声楽史研究、指導法研究など、声楽に関係するものであればすべての事柄についての研究を可とする。基本的に実技を主とし論文を従とするが、逆であっても特に支障はない。
杉 田 政 夫	音楽科教育の理論的研究（歴史、哲学、カリキュラム、発達等）、実践的研究（教材開発、指導法、授業研究等）を主たる指導領域としている。またポピュラー音楽、音楽と社会・文化との関係、音楽療法にも関心を持っている。
中 畑 淳	器楽領域における作品解釈、演奏研究、アンサンブル研究、指導法研究を行う。代表的な音楽様式、諸楽器の発達史、作曲家の研究をもとに、音楽的感性と表現芸術としての演奏技法を磨いてアプローチしていく。学生は各専攻楽器の学修で個別の課題に取り組み、演奏技術向上および作品の芸術的内容の解釈について探究する。それらの成果は学内外の演奏会で発表している。
横 島 浩	古典音楽の作曲理論（和声学・対位法・形式様式学・音楽史）や現代作曲に関する思想と実作についての研究。器楽を学ぶ者は楽曲のアナリゼから導き出される作品解釈と実演への応用の研究。指揮や演奏史についても研究対象とする。作曲を卒論とする学生によって構成されています。ゼミ主宰の作品発表会を定期的に行います。
新 井 浩 （ * ）	新井研究室では彫刻に関する研究を行っており、それに関連する卒業制作又は卒業論文が望ましい。具体的には彫刻の制作・技法に関する研究、公共空間への彫刻設置に関する研究、教育現場における彫刻教材の研究などである。
加 藤 奈 保 子	美術史・美術理論にかかわる研究。おもに西洋美術史。
渡 部 憲 生 （ * ）	美術科教育の教育理念及び授業実践を主たる研究領域とする。造形活動による教育の特性について、指導と評価、育みたい学力と資質の観点から研究を行う。 また、子どもの発達を造形的な視点で捉え、成長を支援するための学習メニューの開発と魅力的な授業展開について研究する。
渡 邊 晃 一	作品制作（絵画、版表現、映像メディア、現代美術）、論文（制作学、身体論、絵画、現代美術、STEAM教育の授業実践等）、プロジェクト（芸術企画）による研究を主たる指導領域としている。学生は個別の課題に即して成果を発表する。

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

人文科学コース

指導教員名	指 導 領 域
井 実 充 史	上代・中古文学の研究。古典教育の教材論。中世文学の研究についても相談に応ずる。なお、関連する演習を履修しておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。
佐 藤 佐 敏	国語科教育における理論と方法を研究する。〈楽しく〉かつ〈資質・能力を高める〉授業の在り方を探る。文献から様々な理論を学ぶと同時に現場の先生方の授業を拝見し、将来に活きる実践的研究を行う。
澁 澤 尚	漢文による文字・文学・思想・神話・諸文化を主とし、清代までの関係領域に対応する。また、漢字文化や漢文学全般、小・中・高等学校教育における漢字・漢文教育にも対応する。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。
高 橋 由 貴	日本における明治期から現代までの文学・文化を対象とした研究。近代以降の散文および韻文だけでなく、演劇・映画・視覚映像といった文学事象についても、広い意味での言語芸術である限り対応する。関連する演習を修めておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。
半 沢 康	主にフィールド言語学の手法を用いた日本語研究を対象とする。方言研究。現代日本語の音声の研究。日本語を対象とした社会言語学的研究など。卒業研究演習開始時までに関連する演習または実習の単位を修得しておくこと。学生研究班（分野は問わない）で活動していることが望ましい。
朝 賀 俊 彦	英語の仕組み、英語と日本語との違い、学習英文法などのテーマについて、言語の普遍的特徴を視野に入れながら、文の構造と意味の構造の分析を中心とした研究を行なう。
川 田 潤	16、17世紀の作品（初期近代英文学）、理想的な公と個の関係をテーマとした作品（ユートピア文学）、別世界を夢見る作品（ファンタジー文学）などを題材として、ジェンダー、階級、人種など、文化的な背景も踏まえて研究する。
佐 久 間 康 之	英語の文字・音声言語情報の処理および理解のプロセス（リーディング及びリスニング）について、特に認知心理学の記憶モデルに基づき、幅広い年齢層（小学生から大学生）を対象に実証的基礎研究を行う。また、これらの知見を基に英語科教育及び小学校外国語活動における指導への応用を目指す。
佐 藤 元 樹	複合語の成り立ち（形態論）や動詞の使い方（統語論・意味論）など、実際の英語使用を言語理論とデータサイエンスの手法で分析する。卒業研究では、母語話者への聞き取りを通して、新たな言語事実を実証的に明らかにする。
高 木 修 一	外国語活動、外国語科そして英語科教育に関わる諸問題について、理論に基づく解決策を検討する。方法論としては文献研究が中心であるが、進捗によって実験・調査研究を行うこともできる。リーディングまたはテストニングに関するテーマが望ましいが、学生の興味に応じて、第二言語習得理論や動機づけに関する研究も担当可能である。
高 田 英 和	主に19世紀末から20世紀初頭にいたる英文学作品（リアリズム小説、モダニズム小説、児童文学）について、その当時の社会・文化的状況（帝国主義、自由主義、ジェンダー／セクシュアリティなど）を踏まえて、研究する。

指導教員名	指 導 領 域
小 野 原 雅 夫	西洋近・現代倫理学。カントやミルなど特定の思想家の倫理思想を分析していくものか、あるいは、生命倫理学や平和論などの特定のテーマを研究していくもの。倫理教育や教育倫理に関する研究も受け付ける。
鍵 和 田 賢	西洋史学。ヨーロッパ諸地域（アメリカ含む）を対象に、任意の時代・地域について、社会・宗教・文化など各自でテーマを設定し研究する。研究を進めるにあたって、外国語文献の読解が必要となる場合がある。（注）「外国史史料講読」を必ず履修しておくこと。
小 松 賢 司	日本史学。日本列島の古代・中世・近世・近代を対象に、社会・政治・文化等に関わる特定のテーマを自身で設定し、古文書などの文献史料を用いて、歴史的事象を研究する。（注）「日本史史料講読」を必ず履修しておくこと。
中 村 洋 介	自然地理学の諸分野並びに自然災害や防災に関わる研究。例えば、地域の自然環境や地震災害、火山災害、津波災害、気象災害、防災計画、活断層研究など。また、防災教育、環境教育、エネルギー教育、ジオパーク、グリーンツーリズムなど、人間社会と深くかかわる自然現象の研究にも対応する。
初 澤 敏 生	「地域」にかかわる様々な人間活動を対象とした研究。地域の産業や経済、文化、社会、政策など、対象は限定しない。地理学を中心とするが、これらの地域現象は民俗学、経済学、社会学などとも密接な関係があり、狭い学問分野には限定しない。地理教育も可。
牧 田 実	ひろく社会学全般を受け入れる。たとえば、コミュニティとまちづくり、家族とジェンダー、情報と文化、学校と教育、若者とサブカルチャー、非行といじめなど、現代社会のあらゆる事象が社会学のテーマとなる。
渡 邊 健 順 （ * ）	社会科教育に関わる研究。社会科の学習内容に関する教材研究等が考えられ、実践を通して子ども主体の授業の在り方を追究する。身近な素材を教材化し、授業に生かす研究にも対応する。地理、歴史、公民の分野は問わない。

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

数理自然科学コース

指導教員名	指 導 領 域
柴 田 崇 広	群論や環論といった代数学の諸分野から題材を選び卒論指導を行う。
中 田 文 憲	曲線と曲面、多様体の幾何学、トポロジーなどの数学のテーマ、またはSTEAM教育を中心とする教育改革に関するテーマから題材を選び卒論指導を行う。
和 田 正 樹	測度論(ルベグ積分)、確率論などから題材を選び卒論指導を行う。
鈴 木 昭 夫 (*)	理科教育におけるエネルギー領域(物理分野)を中心に、教材研究・開発、授業デザイン、カリキュラム構成などの研究を行う。
平 中 宏 典	理科教育学, 教育工学, 地質学に関わる領域とその複合領域(他領域との複合も含む)について研究する。研究に際しては各々のキャリアモデルに応じて, ICT活用, 地域素材活用, 教育実践分析などを取り入れながら進める。
水 澤 玲 子	植物の繁殖生態学的生物研究, デジタル画像解析やDNA分析を用いた植物の進化生物学的研究, または生態分野の教材開発をテーマとした指導を行う。
唐島田龍之介	分析化学と錯体化学に関する研究を指導する。研究テーマは、分析化学分野(バイオイメーシングなど)や材料(発光、磁性材料など)への応用を目指した金属錯体の合成・物性評価、または理科教育への展開を志向した簡易分析法の開発、などの中から各々と相談して決定する。

*の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

スポーツ健康科学コース

指導教員名	指 導 領 域
小 川 宏	1, 体育・スポーツに関わる哲学的な研究。現在の体育やスポーツの様々な問題や考え方について、哲学的な視点から考える。2, 球技におけるゲーム分析的研究。ゲーム分析によってゲームの特徴を明らかにする。
杉 浦 弘 一	1) 競技スポーツや運動をより良い状態で行うためのコンディショニング、運動・スポーツにまつわる身体的諸問題、運動と健康について研究する。 2) バスケットボールに関する研究。
竹 田 隆 一 ＊	1、武道(剣道)における技術論、戦術論に関わる分析的研究(伝書等の文化論的論究、試合の運動学的分析) 2、スポーツの指導法に関わる物理学の視点からの分析的研究(多様なスポーツ種目の熟練者・初心者との比較による物理学的検討)
蓮 沼 哲 哉	生涯スポーツの推進・スポーツと地域振興・スポーツビジネス・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ政策、スポーツと農業などの新たな展開など、現代の地域社会の課題解決に向け、スポーツが果たす役割に着目した調査・研究を行う。
松 本 健 太	体育・保健体育の授業内で優れた教師はどのように児童生徒と関わり、指導を行っているのか、児童生徒はどのような関わりを行い学習しているのかについて研究する。また体育・保健体育の授業内で扱われる教材についても研究する。
本 嶋 良 恵	それぞれの専門競技種目の動作に関して、良い動きとは何か、トレーニングによって動きはどのように変化するのかなど、バイオメカニクス的手法を用いて研究する。また、ゲームパフォーマンスについて分析・研究する。
安 田 俊 広	運動中、身体の中で何が起きているのか? 運動成績を上げるためには、あるいは、加齢などによって生じる運動能力の低下を抑制するにはどのような方法があるのか? など運動中の身体機能の変化について研究する。

＊の付いている教員の卒論指導を希望する者は、コースアドバイザー教員と相談すること。

卒業論文に関する取扱要項

制定 平成17年2月23日

第1条 この要項は、福島大学人間発達文化学類規程第30条に基づき、卒業論文に関する必要な事項を定めるものとする。

第2条 学生は卒業論文を提出しなければならない。ただし特定の領域においては制作、演奏のいずれかをもって論文にかえることができる。卒業論文の作成に当たっては、1年6か月にわたり同一の指導教員の指導を受けなければならない。ただし関係委員会で必要と認めた場合には、この限りではない。

2 卒業論文の単位は4単位とする。

第3条 卒業論文を提出しようとする者は、まず、指導を受けることを希望する教員名と卒業論文題目を所定の用紙に記入の上、指導教員の承認を得て、卒業論文の提出を予定している年度の前年度の9月30日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに提出しなければならない。

2 卒業論文題目の提出後、指導教員の開講する卒業研究基礎演習（1単位）を受講しなければならない。

第4条 卒業論文の提出資格は、卒業研究基礎演習の単位を修得し、この単位を含め、90単位以上を修得した者に与えられる。

2 卒業論文の提出資格を得た者は、卒業論文を提出するまでに、指導教員が開講する卒業研究演習Ⅰ及び同演習Ⅱ並びにプレゼンテーション演習を受講しなければならない。

3 卒業論文の提出資格を得ていない者は、卒業論文を提出することはできない。

第5条 卒業論文は、提出する年度の1月31日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに卒業論文提出届を添えて提出しなければならない。ただし、卒業論文が不合格となった者または提出締切日までに卒業論文を提出できなかった者が、9月卒業を希望する場合は、8月31日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たる時は翌日）までに提出しなければならない。

2 前条によらず第2条第1項にいう制作作品は指導教員に提出し、演奏は指導教員の指示する審査日に行われる演奏をもって論文を提出したものとするが、卒業論文提出届は別途事務担当窓口提出しなければならない。

第6条 卒業論文題目は、原則的に所属する専攻の専門分野に関するものでなければならない。ただし関係の委員会で必要と認めた場合には、この限りではない。

第7条 卒業論文の審査にあたっては、論文に関する口述試験をおこなうことがある。

附則

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

